



エルムの街路並木 (アメリカ・バッファロー市の住宅街) *Elm tree avenue, Buffalo, U, S, A.*

道路公園的な植栽 (チリ・バルパライソ市)



*The curving shore and park road, Valparaiso, Chile*

# 並木

十列余の並木をもつ街路 (チリ・サンチャゴ市)



*Parque Forestal, Santiago, Chile*

明  
道  
達  
博





並木への執念

(風の強いフンタ・アレナス市の並木育成)

*Special cage for young tree, Punta Arenas, Chile*



(アメリカ・サンフランシスコ市の鉢植え並木)  
*Pot-planted street tree, Sanfrancisco, U. S. A.*



遊歩広場の並木 (アメリカ・クリーヴランド市)  
*Promenade with trees, cleveland, U. S. A.*



## 都市生活と並木

明 道 博

造園の目的が、自然と人間社会生活との調和融合を計ることにあるとすれば、それを端的に現実化しているものの一つに並木の手法がある。すなわち並木では、その樹木の自然な生育を計りながら、人間の美意識や利用を満足させているからである。このような関係が人間と自然との間で維持されるためには、並木樹はその生育に適當な環境が与えられ、自然な姿ですくすくと生育できることが大切であるし、一方、人間はそのように自由で旺盛な生育の情景に快感を覚え、また、楕下の路を楽しく遊歩できさる。

このような並木は、公園や半公共的な敷地、あるいは郊外の街道沿いなど、ある程度広い空間が得られる場所ではしばしば見られ、景観的には、他に替え難い価値がある。一般には、それぞれの地方的環境に適した樹種が並木として採用されていて、せい一杯の生育が行なわれ、その地方の象徴ともなり、人に強い感銘を与えている場合が多い。一方、わが国で街路樹と呼ばれているものがある。これは、もともとは並木の良さを人間、および人工物が圧倒的に多い都市環境下に引き入れて、街路を修飾しようとしたものである。

## 大樹の多い広場

(チリ・サンチアゴ市)

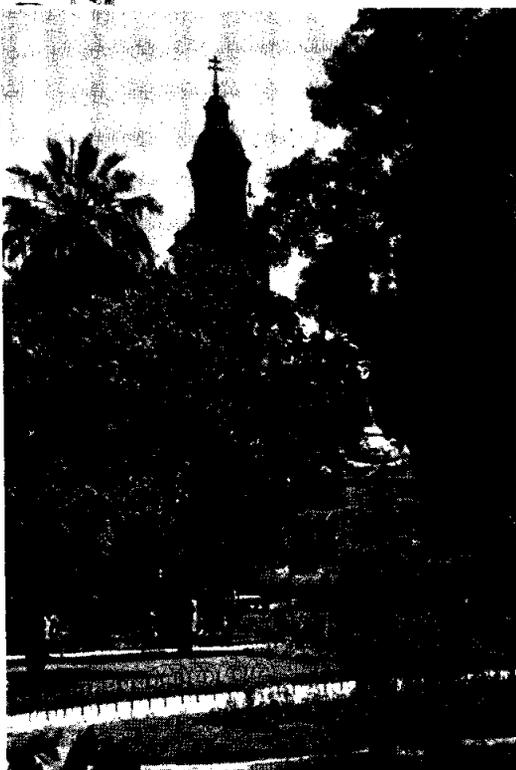
Plaza with large trees,  
Santiago, Chile



## 大王ヤシの並木 (アメリカ・マイアミ市)



Royal palm array, Miami, U. S. A.



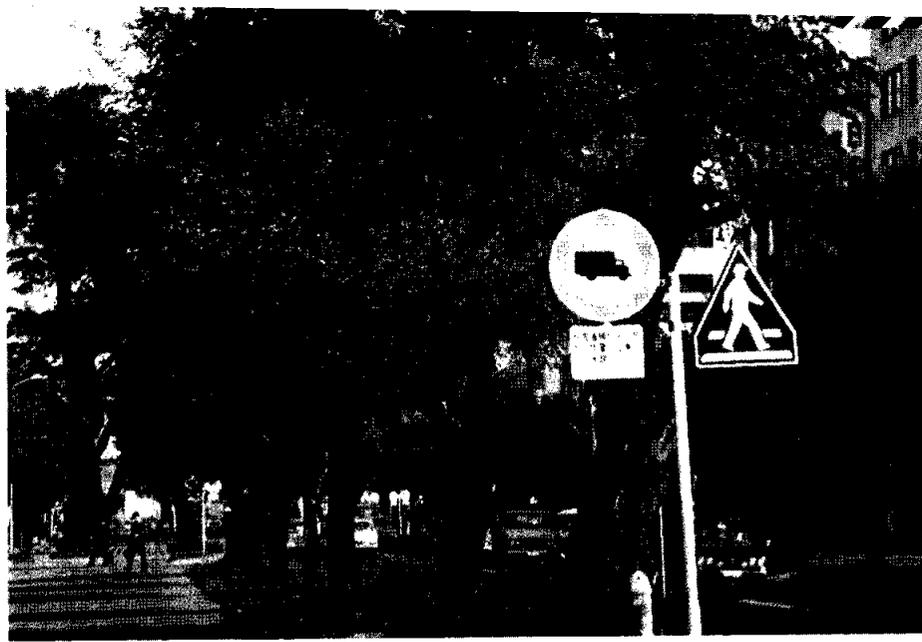
並木は前述のように、それ相当の空間量を与えられなければその良さが発揮されないものだが、わが国では非常に無理な狭い街路にまで植栽が行なわれている。このため樹高は制限され、枝は強く切りつめられて、いわば街路樹という日本的な整枝法ができた。しかし、都市は市街化がすすみ、ますます街路樹の生育環境を悪化し、日照、水分、栄養などの欠乏によって、街路樹の生存そのものさえおぼつかなくなる。

並木の良さは、自然と人間生活とが環境的に互いに対応した調和にあったが、街路樹はきわめて人間本位で、人工的環境の中に無理やり自然を引き入れようという形になっている。すなわち、そこには自然というイメージはもはやなく、自然物による街路のアクセサリとなっている。もしこのように割り切ってしまうと、環境的に無理な街路には街路樹の植栽を見合わせて、これに代る移動花壇や鉢植えの樹木など、土地を占有しない修飾法が考えられるのではないか。自然と都市生活との調和という街路樹本来の目的を果たすためには、街路樹は並木的な形態をとることが大切であり、そのためには、思う存分生育しうる空間的余地を与えられなければならない。このためには、思い切った幅広い修飾街路を計画し四六樹列を配置して、主な公園・広場などをこれによって連絡するようにすればよいだろう。

(北大農学部教授)

アカシア並木 (札幌市)

*Locust avenue, Sapporo*



プラタナス並木 (札幌市) *Plaine avenue, Sapporo*



姿を消した柳の代りにマサキが  
植えられた (東京・銀座)

*Dwarf Euonymus green belt, Ginza, Tokyo*



冬のアカナラ並木 (札幌市)



*Red oak in winter, Sapporo*